

富山市総合計画審議会「調整部会」 議事録

日時：令和3年10月19日（火）14:00～14:55

場所：富山市役所 8階802会議室

出席者：（順不同）

高木 繁雄 富山商工会議所会頭（部会長）
北岡 勝 富山市自治振興連絡協議会会長
石動 瑞代 学校法人富山国際学園 富山短期大学 幼児教育学科教授
久保田 善明 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科教授
長尾 治明 富山国際大学名誉教授
中村 和之 富山大学副学長

企画管理部 前田部長、渡辺理事、森次長、刑部参事、山口企画調整課主幹、堀企画調整課主幹、
宮城企画調整課主査、村中企画調整課主任

財務部 牧田部長

福祉保健部 田中部長

こども家庭部 大沢部長

市民生活部 岡地部長

環境部 杉谷部長

商工労働部 大場部長

農林水産部 山口部長

活力都市創造部 中村部長

建設部 舟田部長

上下水道局 山崎局長

病院事業局管理部 藤沢次長

議会事務局 浦野事務局長

教育委員会 山本事務局次長、大久保事務局次長

消防局 相澤局長

議事内容：

1. 開会

2. 第2次富山市総合計画後期基本計画（案）に対する答申（案）について
事務局から答申案について説明。

委員

- ・ 人材・暮らし部会の意見は反映されている。
- ・ 人材・暮らし部会では、安心という言葉が出たが、今現在の生活に一定の評価をしている中で、今後

社会が伸びることも期待しながら、今ある社会を確実につなげていくということを基本にまとめていただいた。

- ・ 「誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」について、現在、様々な体制の下、安定して暮らしている人の中で、それでもセーフティネットから取りこぼされてしまう方に関してもしっかりと支えていくような施策や意見、時代に対応した暮らしに関して、デジタルの問題や、多様性を受け入れること、不登校の問題、新型コロナウイルス感染症に関する意見、さらには新しい感染症への対応について、現在の安定した暮らしを確実に継続していくための後期基本計画ということで、うまくまとめていただけた。

委員

- ・ 活力・交流部会では、「新たな価値を創出する産業づくり」に関して、特に、この2、3年で駅前の魅力が変わり、その中において、駅周辺の機能と従来からある総曲輪、中心商店街、地域にある商店街、この辺りの役割や機能も変わっていかないといけないのではないかという意見があった。従来、商店街というのは、物を売るという機能が中心になっていたと思うが、いわゆる物消費ではなく、地域の生活にどのように対応していけるかという機能性役割をもっと充実させていく必要があるのではないかという意見が出ていた。
- ・ DXの対応に応じた農業の高付加価値化や産業の推進をいかに高めていくか、また、いろいろな産業において、魅力を今後どのように創造していくかという意見もあった。
- ・ 観光交流はかなり痛手を負っているが、今後、コロナの収束による人的交流、ウィズコロナ・アフターコロナの中で、観光交流のあり方をどのように考えていくのか、いろいろな視点から対応を図っていく必要があるのではないか。
- ・ 多様な働き方や仕事のあり方については、従来のように8時間労働ということじゃなくて、働き方においてもこれから工夫をしていく必要があるだろう。
- ・ 歴史・文化・芸術に関連する意見では、今、富山市が取り組んでいるガラス関連の産業について、芸術文化というような切り口も重要だが、産業化という視点から、ガラスの側面をどのように富山市の中に位置付けていくかという意見が出た。
- ・ いろんな視点で委員から熱心に意見をいただいたので、着実に具現的に表していただければと思う。

委員

- ・ 沢山の意見をコンパクトにまとめていただき、大変素晴らしいと思う。
- ・ それぞれの部会の個別事項で、新型コロナウイルスに関連した表記が多くあるが、総括的事項では、一行でさらっとしか触れられていない。もう少し加えると、個別事項でのウィズコロナ、アフターコロナに関して述べているところの重みが増してくるのではないか。
- ・ 協働・連携部会は、各部会の基礎、基本のところだと思うので意見が出にくかったのではないか。

委員

- ・ 全体を通して、非常にバランスよく、網羅的にうまくまとめていただいたと思う。
- ・ 特に、都市の格を高めるという表現が出てくるが、非常に大切なことなので、都市格を高めるために

今後も邁進していただきたい。

- ・ 「人にやさしい安心・安全なまちづくり」では、近年自然災害が激甚化しているため、その対応をどうしていくかということや雪の問題など様々な自然災害に備える必要がある。稀にしか起きない緊急的なことは後手に回りがちだが、事前に対策を立てておくというのは非常に大切であり、それについても文言の中に盛り込んであり、しっかりと進めていただきたい。

- ・ 「コンパクトなまちづくり」は富山市がずっとこれまで進めてきたまちづくり政策であり、コンパクトシティ政策という言葉がこれほどまでに市民に浸透している自治体は全国にないのではないかとと思う。全国的にも、都市政策に関わる方や研究者の中で、コンパクトシティといえば富山市というように代名詞的になっていて、これはもはや富山市にとって一つのブランドになっていると思う。

このコンパクトシティ政策をブランドとして、一つの観光資源に使っていくという見方もできるのではないかと。実際に他県の高校などから、富山市の都市政策、環境政策を見学したいという申し出が近年増えていると聞いている。それを観光のパッケージ化し、どんどん売り出していくことを、活力・交流部会とも関連するテーマで進めていただきたいと思う。

- ・ 一方、コンパクトシティ政策は、中心市街地に対する投資が中山間地域まで及んでいないという印象を持っておられる市民も多い。うまくバランスの良い方法を今後考えていく必要があると思う。
- ・ 「潤いと安らぎのあるまちづくり」としては都市景観の向上や中山間地域の振興、「自然にやさしいまちづくり」としては、近年のエネルギー問題等への対応を進めていただきたいと思う。
- ・ 都市・環境部会は、これまでの富山市の様々な政策の成果が形として現れる部分だと思うので、これからもしっかりと支え進めていただきたい。

委員

- ・ 協働・連携部会での意見を反映して、今回の案を作っていたらと思う。協働・連携部会は、行政の枠組みや市民との関係のやや抽象的なところを検討する会だったが、その中でも各委員からは個別具体的な事例に即した意見をいくつかいただけたと思う。
- ・ 部会では、地域、都市部と中山間地域の連携、補完に加えて、世代間の連携ということが強く意識されていた。若い人たちのまちのづくりに対する思いをどのように反映させていくのかについて提案や意見をいただいた。将来の富山市を担っていく人達の視点というのが大事だし、そういった人たちのシビックプライドやまちへの愛着を醸成していくことが大事だという意見があった。
- ・ 富山市の取組をしっかりと情報発信することが、これまで以上に求められるのではないかとということで、こちらでも盛り込んでいただいているが、世代によっても情報を受け取るツールは違うので、その辺りは戦略的に取り組んでほしいという意見もあった。
- ・ 市が培ってきた自治振興会や地区センターを中心とした活動は、やはり交流の場、アイデアが生まれるポテンシャルがあると思われるので、しっかりこれまで以上に取り組んでいただきたい。一方で、その公民館が全世代型になっているのかという意見をいただいた。コミュニティや地域で、フェイス・トゥ・フェイスで人が集うことの必要性を強く言っていただいた。
- ・ 抽象的な枠組みではあるが、個別具体の意見もいただいた。それに関しては、答申案の「おわりに」で、「個別具体的については改めて検討するよう要望する」という形になっているので、具体の意見が反映されているのではないかとと思う。

- ・ 総合計画ということで網羅的になるし、やや表現が抽象的になる。とりわけ協働・連携部会は、抽象度が若干高めだったので、連携をテーマとしたときに具体的なイメージをどう捉えたらよいのかという意見も出た。総合計画をベースにして、さらに施策へ進んでいくことが大事だと思う。

部会長

- ・ 各部会いろいろな意見を積み上げて、整理している。
- ・ 1つに、別冊で良いので、ディフィニション（定義）を示すべきではないか。富山市の施策は、シビックプライドなど、非常にファジー（あいまい、不確かさ）なものが多く、人によって捉え方が異なると土台から崩れてしまう。最低限どういうところを目指すのかを示すことが、目標の設定にもなると思う。非常にすっきりしているが、蓋を開けてみるとどうとでも言える内容である。具体的な提案も答申案の中で散りばめてはどうか。
- ・ 2つに、市役所のデータサイエンスの機能を上げると書いてあるが、そういうところに飛び込んでほしい。

1990年代くらいまで、日本の高校生の偏差値は世界一高かったが、今は20位、30位以下である。抽象的な話で終わらずに、具体的なデータを集め、整理して、結論を導くディスカッション能力が欠けている。統計、確立、分散、集合は数Ⅲまでやらないと教えてくれない。富山大学などいろいろなところで教えているが、データサイエンスは数Ⅲで十分であり、いろいろなデータを持ってきて活用しながら、私の意見はこうだという論法ができるようになるのがすごく遅く、企業に入ってからそのまですでなるのに大体40歳になってしまう。欧米では40歳という一番働き盛りの社長になっている。
- ・ 3つに、前述のデータサイエンスはDXも絡むものだが、DXを活用しながら、市の施策を進めていくことも必要となっているのではないか。
- ・ 4つに、総合計画でも記述されている富山ガラスが県の推奨ブランドに入っていないことを課題として捉えている。高岡銅器は入っているが、富山のガラスは素晴らしいと思っているので、市としてどう推進していくかということを経済計画に入れていただければよいと思う。

事務局

- ・ 答申案について、先ほどご紹介いただいた他にも、これまでの審議会での議論を通して、我々にとって耳の痛い意見、大変厳しい意見もいただいた。

加えて、市内11会場でタウンミーティングを行い、地域住民の皆さんから富山市のまちづくりについて、我々が気づかなかったことや、なかなか足を踏み出せなかったことなど、様々な意見をいただいた。最近、聴く力というものが求められており、審議会や市民説明会を通して、様々な声をしっかり受けとめることが改めて大事だと認識した。後期基本計画は、審議会から答申をいただいて終わりではなく、しっかり実行していくことこそが大事なので、計画に書ききれなかったことも含めて、しっかり実行していきたい。
- ・ 県の推奨ブランドへの富山ガラスの認定については、九谷焼、加賀友禅、高岡銅器のような伝統がない中、ゼロから出発した富山のガラスなので、せっかく頑張っている富山のガラス作家を後押しできるように、ブランドとして今年こそは何とか認定されるようにしたい。

部会長

- ・ これからの後期計画は、目に見えるものがなかなか難しいだけに、計画に記載のある用語の定義がわかるよう、市が一生懸命やってきたことが後世に残るようにも定義を決めておいて方が良いと思う。

委員

- ・ 答申案の句点間の距離が長く、読みづらさがあった。
- ・ どの部会も大変熱心に討論されたので、答申案の個別事項の字数は統一した方が良いのではないかと。

委員

- ・ 総合計画の漠然とした感じというのは、多くの人が感じているところとだと思いが、今後、総合計画に基づいて、個別具体の計画として、こういうことをやっていくというメッセージが出てきたら、自ずと明らかになっていくところもあると思うので、ぜひ、答申案を踏まえてしっかり実行してほしい。

部会長

- ・ 本日の意見を基に答申案を修正いただき、11月8日の第2回全体会で審議会委員の皆様のご承認をお願いしたいと思う。

以上